

# 三重大学における共創拠点の取組事例について

## ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部計画課

# 三重大大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大大学の情報を基に  
文部科学省作成

## 共創拠点化の目的

### 地域イノベーション研究開発拠点



地域イノベーション  
研究開発拠点

#### 【目的】

- 地域の産業界との共同研究（各種センター）を土台とした地域社会の将来を担う中核人材の育成（地域イノベーション学研究科）ができるヒト・モノが結集して地域共創する拠点（地域イノベーションのハブ拠点）を確保

#### 【機能】 ○地域イノベーション学研究科（学部を持たない大学院）

#### ○（地域や産業界と連携した）各種センターの拠点

（神事・産業・医療用大麻研究センター、半導体・デジタル未来創造センター、地域圏防災・減災研究センター、キャンパス・インキュベーション室）

### 地域拠点サテライト

#### 【目的】

- 各地の企業、自治体との連携関係を強化することで、**県全体を教育研究の場（フィールド）**とする。
- 三重大大学と地域との**窓口**となり、**地域の課題（ニーズ）**と三重大大学が持つ**基礎・応用研究（シーズ）**を掛け合わせるための**教育研究拠点**として機能し、**地域課題解決に必要な学際的研究による成果**を**地域や産業界に還元（三重県全域へ波及させる）**。

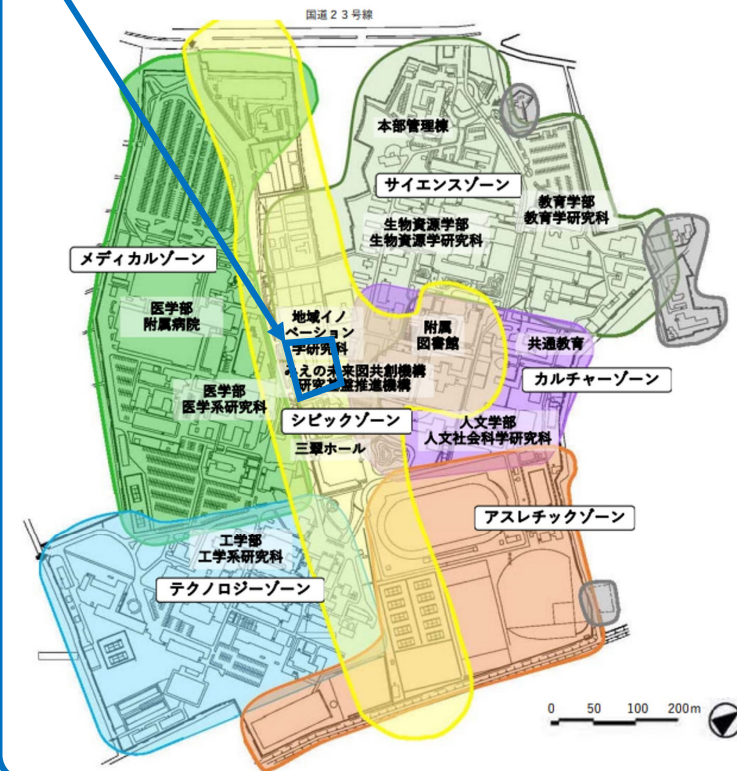
自治体等の施設を活用して  
県内5か所に設置。



### 三重大大学キャンパスマスター プラン2024

#### <上浜キャンパスの利用ゾーン>

医学、工学、農学、教育学、人文社会学  
全てを網羅する**全学的な教育研究拠点**となるよう、**上浜キャンパス**及び  
三重大大学の社会に向けた顔をつくる  
**シビックゾーンの中央に設置**



# 三重大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大学の情報を基に  
文部科学省作成

## 施設整備（ハード）と仕組みづくり（ソフト）の変遷

### 地域イノベーション研究開発拠点

#### A棟・B棟の新築（1993年）

【目的】 地域との共同研究や産学連携

【現在の機能】

- 地域圏防災・減災研究センター
- キャンパスインキュベーション室
- 遺伝子実験施設

#### C棟・D棟の増築（2013年）

【目的】 共同研究（各種センター）を土台とした育成（地域イノベーション学研究科）ができるヒト・モノが結集して地域共創する拠点（地域イノベーションのハブ拠点）を確保

【現在の機能】 ○地域イノベーション学研究科  
○神事・産業・医療用大麻研究センター  
○半導体・デジタル未来創造センター

1993 1994 ～ 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 ～

### 地域イノベーション学研究科

#### 西村研究室ゼミ開始（2009年）

○西村教授が三重大学医学系研究科教授に就任後、博士課程に入学した社会人学生（地域企業の社長等）等と議論する中で、大学を開くと社会人（特に経営者）に役立つことが次第に分かってくる。

#### 博士課程の増設（2017年）

<博士前期課程>

社会イノベーションユニット：  
地域や組織に変革を起こす社会起業家（ソーシャル・アントレプレナーシップ）人材の育成

#### 博士課程の改組（検討中）

<博士後期課程>

科学技術イノベーションユニット：  
理論の追求から実践への発展  
社会創造イノベーションユニット：  
実践に潜む理論を見出して科学的に紐解く

往還する学びの場 ➡ 社会が求めるイノベーターの創出

○当時の豊田学長からの「文理融合の大学院」構想を基に、地域と共に共創して発展する「地域イノベーション」を研究し教育する場（新しい大学院）を構想。

地域イノベーション  
学研究科の設置  
（2009年）

サンドイッチ教育：  
研究力・専門力を養う「R&D  
教員」とプロジェクト・マネ  
ジメント力を養う「PM教員」  
による指導

OPT教育：  
地域企業との共同研  
究を通して課題の現  
場感覚を養う

# 三重大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大学の情報を基に  
文部科学省作成

## 取組概要

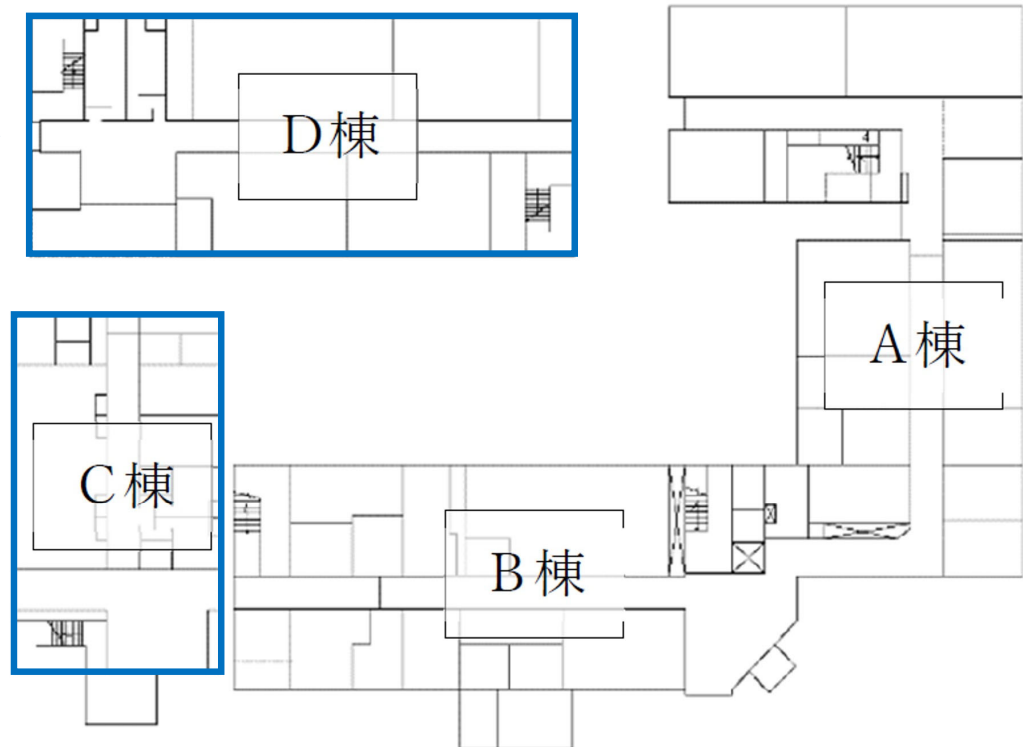
### 地域イノベーション研究開発拠点（A～D棟）

| 施設名      | 建設年            | 構造 | 階数             | 面積(m <sup>2</sup> ) | 用途                  | 機能                                                       | 財源<br>(総事業費)                         |
|----------|----------------|----|----------------|---------------------|---------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| A棟<br>B棟 | 1993年<br>2004年 | RC | A棟:3F<br>B棟:3F | 3,677               | 研究室、実験室             | 地域圏防災・減災研究センター<br>キャンパスインキュベーション室 等                      | 国立大学<br>特別会計                         |
| C棟<br>D棟 | 2013年          | RC | C棟:3F<br>D棟:5F | 4,764               | 研究室、実験室、<br>講義室、ホール | 地域イノベーション学研究科<br>神事・産業・医療用大麻研究センター<br>半導体・デジタル未来創造センター 等 | 国立大学法人等<br>施設整備費<br>補助金<br>(約10.7億円) |

C棟・D棟の増築に合わせて、ヒト・モノが結集して地域共創する拠点（地域イノベーションのハブ拠点）となるよう、ディスカッションができる「講義室」や「ホール」を整備



地域イノベーションホール

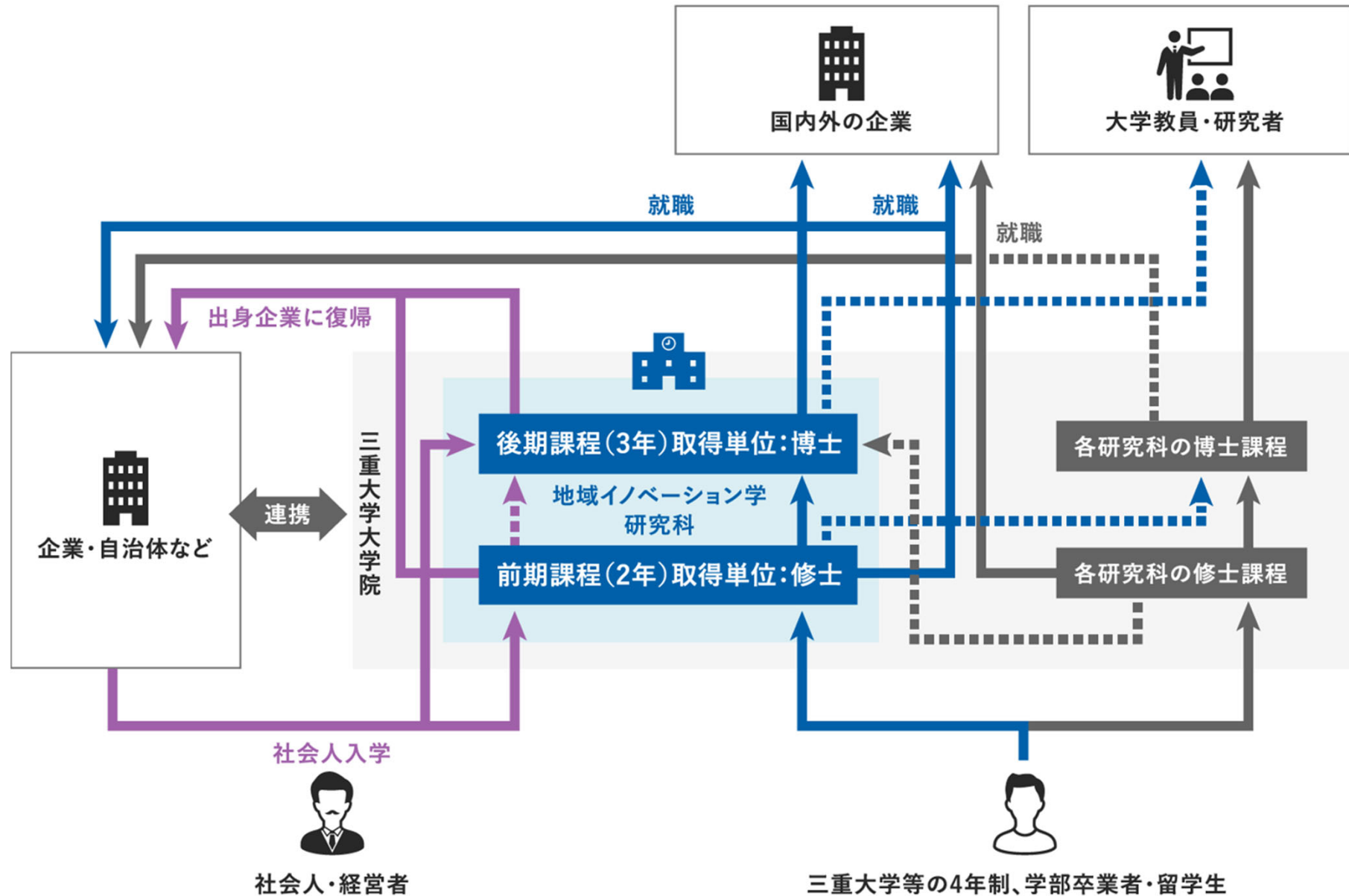


# 三重大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大学作成

## 取組概要

### 地域イノベーション学研究科の概要



# 三重大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大学の情報を基に  
文部科学省作成

## 共創拠点化による効果

### ■地域課題解決に必要な学際的研究による成果を地域や産業界に還元

【地域イノベーション学研究科で学んだ主な経営者たち】※役職等は博士号取得時



(博士論文題目)同族経営から同志経営へ

2015年3月 博士号取得(2009年4月入学)

(株)マスヤグループ本社 代表取締役社長 浜田吉司さん

後継者不在の地元企業に  
自身が育てた経営者を送り込み企業を存続



(博士論文題目)

ビール製造への利用を目的とした香気生産野生酵母の香気特性および実用性評価に関する研究

2017年3月 博士号取得(2012年4月入学)

(有)二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長 鈴木成宗さん

新しいクラフトビールを  
科学的に作り上げ、事業を拡大



(博士論文題目)

病害抵抗性トマトの育種によるトマト栽培における収益性改善に関する研究

2016年3月 博士号取得(2010年4月入学)

(株)浅井農園 代表取締役 浅井雄一郎さん

辻製油から排出される熱湯と余剰蒸気を利用した最先端農業の導入による高い収益性を実現



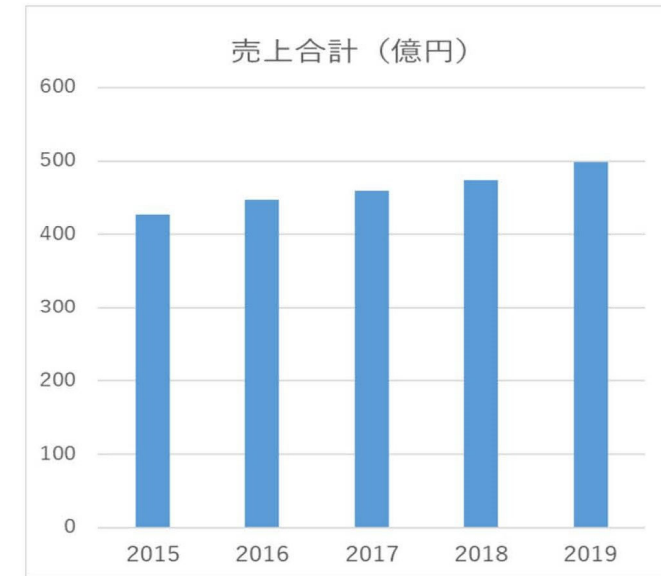
(博士研究題目)

観光地に立地する中小飲食店の プロセス・イノベーションに関する事例研究

2022年3月 博士号取得(2016年4月入学)

(有)あびや 代表取締役社長 小田島春樹さん

翌日の顧客数を予測するAIを開発して店に導入し売上と利益を拡大



大学院で学んだ経営者たちの企業業績の推移

### 【OUTCOME】

○地域の産業界が抱える問題を共に考える共同研究を三重大学と地域の企業が行い、その成果を地域や産業界に還元することで、新事業の創造による地域経済の活性化に貢献

# 三重大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大学の情報を基に  
文部科学省作成

## 共創拠点化による効果

### ■地域社会の将来を担う中核人材の育成

(令和6年10月1日時点)

|        | 一般学生 | 社会人学生 | 留学生 | 合計 |
|--------|------|-------|-----|----|
| 博士前期課程 | 22   | 9     | 4   | 35 |
| 博士後期課程 | 3    | 25    | 6   | 34 |



社会人学生は25名。  
一般社会に出てから学び直したいという社会人のニーズが高い。

(令和6年10月時点)

|                                     |               |
|-------------------------------------|---------------|
| 地域イノベーション学研究科でこれまで博士後期課程に在籍した社会人学生数 | 79名（うち26名在籍中） |
| 地域イノベーション学研究科でこれまで博士号を取得した社会人学生数    | 31名           |
| 地域イノベーション学研究科でこれまで博士号を取得した社会人の割合    | 約60%          |

### 【OUTCOME】

○地域の産業界と三重大学との共同研究による成果を地域や産業界に還元できる、博士号を取得した社会人を数多く輩出しており、地域イノベーションの創出に貢献

### ■地域や産業界との連携による地域イノベーションのハブ拠点の形成

|                   |                                            |
|-------------------|--------------------------------------------|
| 神事・産業・医療用大麻研究センター | 連携企業数：4社、連携機関：6機関                          |
| 半導体・デジタル未来創造センター  | 連携企業数：4社、連携機関：3機関、連携自治体：3自治体（三重県、四日市市、桑名市） |

### 【OUTCOME】

○地方立脚型の企業や自治体等が抱えている課題の克服に向けて、地域や産業界との連携体制を構築することにより、地域イノベーションのハブ拠点を形成

# 三重大学における共創拠点の取組事例 ～地域と連携した人材育成と地域産業振興～

三重大学の情報を基に  
文部科学省作成

## 地域と連携した人材育成と地域産業振興のための共創拠点の実装化に向けた課題と方向性

- 地域の産業界と国立大学との共同研究を土台として、「プロジェクト・マネジメント（PM）ができる研究開発系人材」や「地域にゼロから一を創造できる社会起業家（ソーシャル・アントレプレナー）人材」といった**地域社会の将来を担う人材の育成**に向けた教育（リカレント教育など）・研究を実施することで、そこで学んだ**社会人が共同研究の成果を企業に還元し、新しい社会に適応した新産業の創造（変革）に繋げ（覚醒）、その行動が更に他の社会人や一般学生などにも影響を与え、連鎖反応（地域イノベーションの群発）による地域経済の活性化**を促すためには、**裱を脱いだ議論※**ができる場をソフト・ハードの両面で整備することが重要ではないか。

※ 地域企業からは、国立大学は敷居が高く、国立大学以外の行政でも本音で話せない部分があるという意見があるとのこと。

- 国立大学が地域の産業界と共に発展（成長）していくためには、**地域との一体感、信頼関係を相当強く構築する必要**があり、そのための**ヒト・モノが結集して地域共創する拠点（場）**をソフト・ハードの両面で整備することが重要ではないか。